

平成 26 年度 第2回機械振興補助事業審査・評価委員会 議事要旨

1. 開催日時:平成 26 年 7 月 11 日(金) 午後3時00分～午後5時00分
2. 開催場所:公益財団法人 JKA 4A・B 会議室
3. 出席者
大山永昭委員長、金子聰委員長代理、小舘香椎子委員、島裕委員、高千穂安長委員、
中原秀樹委員、野坂雅一委員、藤本浩志委員、丸山哲朗委員、吉岡忍委員、渡辺博委員
(事務局)石黒会長、笹部執行理事、松川部長、宮本課長、菱倉課長、西上課長補佐
4. 議題
(1)平成 27 年度補助方針(案)について
(2)その他
5. 補助事業者プレゼンテーション
一般社団法人 日本教育情報化振興会
6. 審議結果
・議題(1) 平成 27 年度補助方針(案)については原案の通り了承された。
7. 意見概要
議題(1)平成 27 年度補助方針(案)について
 - ①「自転車・モーターサイクル」の従来の表記が抽象的であるため改めたとのことであるが、ローテクノロジーの代表で環境への貢献度が高い自転車を更に社会に根付かせるため、「自転車を用了環境にやさしい社会づくり」に対する補助を行うことができるよう、従来の表記も残しておいたほうが良い。
 - ②一事業者でいくつもの事業を要望申請してくる例があるが、長期的視点に立った時に、一事業者への補助金額に上限額を定めても良いのではないか。
 - ③今後は、注力すべき分野、広がりのある補助事業を時代のニーズに合わせて示し、JKA として目指す補助事業のあり方を見せることを考えることも必要である。
 - ④継続事業者の場合は過去の事業内容を、複数事業を要望する事業者の場合は事業の関連性を俯瞰できればより良い審査ができる。
 - ⑤医療機器と福祉機器はまったく違う領域で、医療の場合は、補助金を付けて研究開発を助成

するというのは考え方としてあるが、桁違いの金額でないと効果がない。一方、福祉機器については川下の実用化研究をしっかりと念頭に置きつつ、川上側の技術開発について、現場では使えないもの、審査にのぼる値打ちがないような事業など精査する必要があり、本当に良い内容の事業要望が来るのかという心配がある。

*本議事要旨は、(公財)JKA事務局が作成